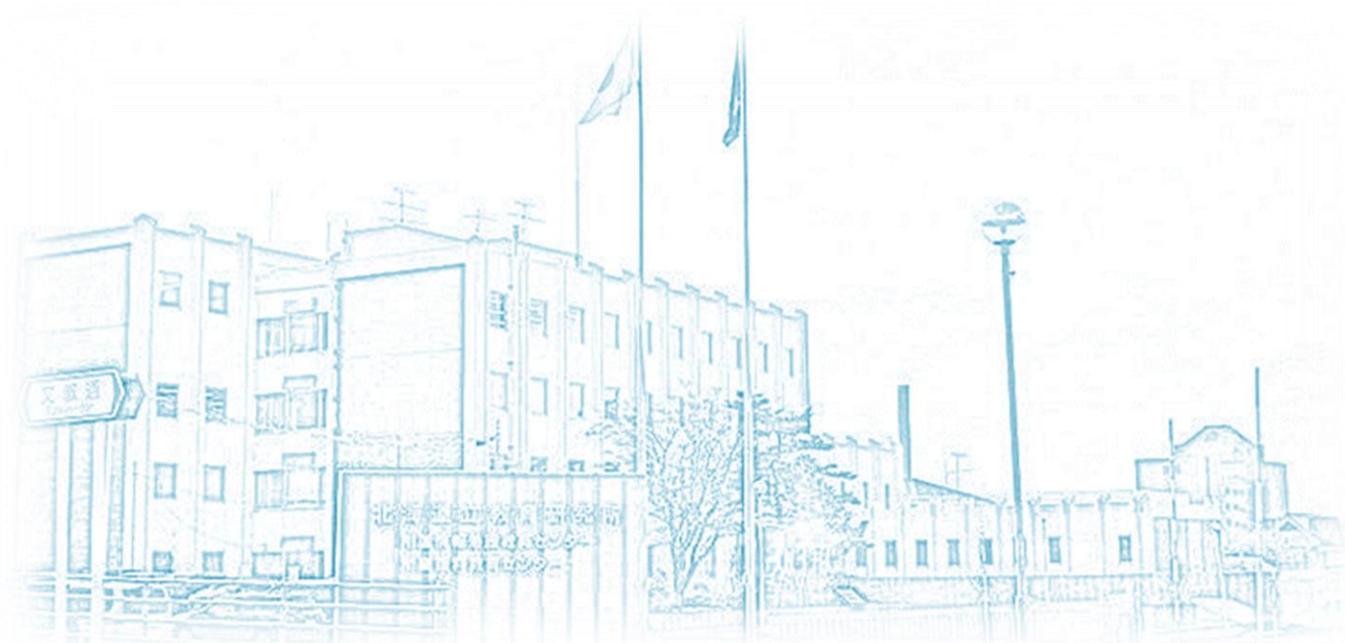


令和 5 年度

# 北海道立教育研究所運営懇談会

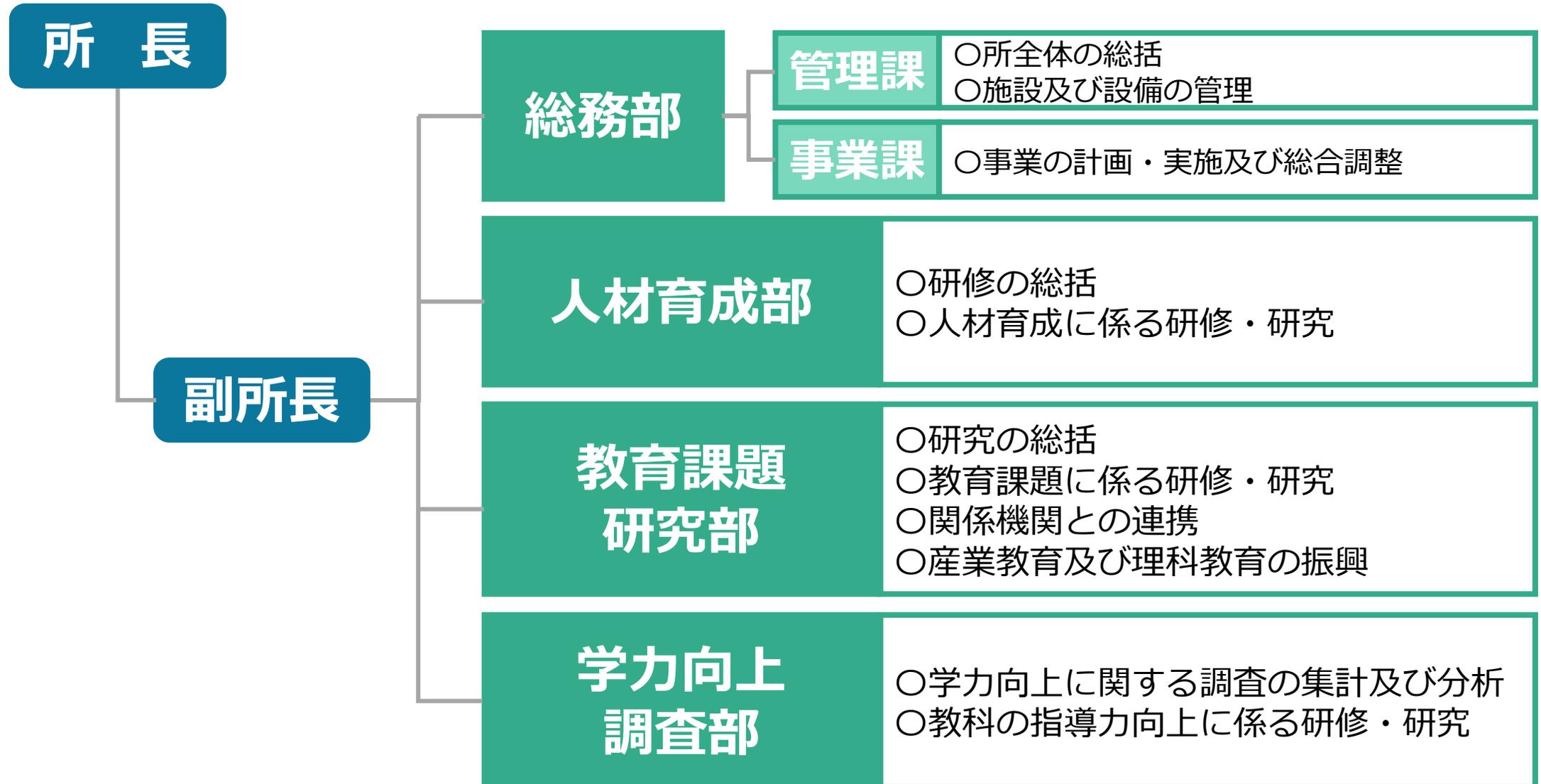


# 沿革

---

- 昭和24年 旧北海道立図書館（北1条西5丁目）  
の一室に設立
- 昭和32年 「北海道教育研究所条例」制定
- 昭和44年 「北海道立教育研究所」に改称、  
現在地(江別市文京台)に新庁舎完成
- 令和 5年 附属情報処理教育センター及び附属  
理科教育センターを教育研究所に統合

# 組織機構



# 主な道研の取組

---

- 1 教育に関する専門的、技術的事項の調査研究
- 2 教育関係職員の研修
- 3 その他教育の振興を図るために必要な事業

---

# 令和 5 年度事業報告

# 調査研究

## 令和5年度プロジェクト研究のコンセプト

### 新しい時代に対応し、北海道らしい教育施策につながる研究の推進

#### 1 今年度のプロジェクト研究のテーマ

##### [教育の動向を踏まえた先進事例に関する研究]

- ① 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた教員研修の研究

##### [本道の教育施策の具現化に関する研究]

- ② 問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究
- ③ STEAM教育推進のための理数探究や教科等横断的な探究的学びに係る研修及び研究

##### [本道の教育課題に関する研究]

- ④ へき地・小規模校における遠隔合同授業の推進に関する研究

# 調査研究

## 2 今年度の取組

### (1) 中間報告会の実施（所内）

第1回 9月26日 第2回 12月5日



→ **研究の進捗状況の確認・共有  
所員の研究に関するスキルの向上**

# 調査研究

## (2) 成果報告会の実施

～ねらい～

- ・ 道研の取組の成果の発信
- ・ 本庁との連携強化
- ・ 大学等の外部の意見の収集、連携構築

①期日 3月19日(火) 13:30～15:30

②場所 北海道立教育研究所大講義室  
オンライン配信

③参加・視聴対象  
本庁各課、各教育局、大学、  
北海道教育研究所連盟加盟機関



### 令和5年度 北海道立教育研究所 プロジェクト研究成果報告会



学校の教育課題解決や、教員研修の充実に向けた調査・研究の1年間の成果を報告します。

日時: 令和6年3月19日(火)13:30～15:30  
 ◇会場: 北海道立教育研究所2階大講義室  
 ◇実施方法: 集合またはライブ配信

13:00	13:30	13:30	15:05	15:30
継続確認	開会	発表及び助言 (23分×4G 92分)	講評	閉会

<講師>  
 北海道教育大学函館校  
 特任教授 鈴木 淳 様  
 北海道教育庁学校教育局長  
 川端香代子 様

<助言者>  
 北海道教育庁学校教育局  
 関係課長 様

お問合せ: 011-386-4524(教育課題研究部研究主幹 市村) ※別紙様式によりお申し込みください。

# 調査研究

## 3 今年度の研究成果

### ① 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた教員研修の研究

→研修講座の改善を通して、オンデマンド、集合、遠隔の研修様式と職場実践を組み合わせた研修スタイルを提案

### ② 問題解決や探究的な学びの充実にに向けた授業改善に関する研究

→高校教員との授業研究・実践により、「協働的な学びの環境づくり」「ICTの活用」「教科横断」「地域とのつながり」等を通じた探究的な学びの過程や方法を提案

### ③ STEAM教育推進のための理数探究や教科等横断的な探究的学びに係る研修及び研究

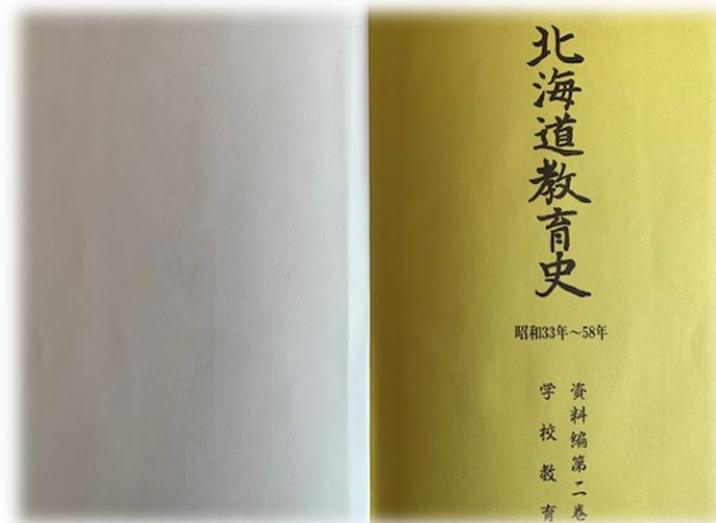
→STEAMを視点とした企業や博物館との連携及び社会や産業との関連を図りながら、研修講座や振興事業を行うことにより、STEAM教育の枠組みを提案

### ④ へき地・小規模校における遠隔合同授業の推進に関する研究

→遠隔合同授業を促進するへき地・小規模校同士のコミュニティづくりを試行することにより、コミュニティの基本形を提案

# 調査研究 北海道教育史の編纂

- 北海道教育委員会OBを執筆委員に依頼
- 「教育行政」「学校教育」「社会教育」の3分野について調査研究、執筆
- 現在、第4期（昭和59年度～平成15年度）について執筆中
- 令和10年度に完成予定



# 研修

令和5年度研修講座のコンセプト

## 「新たな教師の学びの姿」を実現するための 研修の推進を

「新たな教師の学びの姿」を実現する研修の推進とは...

主体的な  
姿勢

継続的な  
学び

個別最適な  
学び

協働的な  
学び

# 研修

## 研修効果の一層の向上のため 研修様式を組み合わせる実施

### オンデマンド型研修

都合のよい時間に  
自分のペースで基礎知識  
を習得し、  
課題を  
整理



### 集合型研修

本物に触れ、感動を味  
わうなど授業改善に直  
結する実習  
や演習等の  
実施



### 職場実践

研修で学んだことを  
授業や校内研修で  
実践し  
多くの教員  
へ還元



### 遠隔型研修

道内外の第一人者から  
新たな知見を学ぶ機会  
は、自校を  
離れず研修  
に参加



# 研修

道研研修講座  
22

## 生徒指導研修Ⅰ～いじめ問題への組織的な対応～



授業実践



校内での協議

様々な  
職場実践

### 【研修日程・内容】

①0.5h

6/13～6/27  
オンデマンド型  
研修「講義」

6/27～  
6/30  
職場実践

②5h

7/3  
遠隔型研修Ⅰ  
「講義・協議・  
演習」

7/4～  
11/27  
職場実践

③1.5h

11/28  
遠隔型研修Ⅱ  
「実践交流」

講師 ②北海道教育大学教授 平野 直己 氏

# 研修

## 受講者の声

### 【オンデマンド型研修】



繰り返し動画を視聴できるので、理解が深まった。

自分のペースで分けて視聴できた。

### 【職場実践】



遠隔型研修などで学んだことを、職場実践の期間中に実践し、その際の悩み事も道研の研究研修主事と相談できたことで、研修内容を深く理解することができた。

### 【集合型研修】



管理職研修などは、時間をかけてじっくりと協議するための場面が確保されていることが重要であり、自身の実践を深く省察することができた。

### 【遠隔型研修】



遠方からの移動の時間や手間をかけることなく、道研の講座を受講することができ、大変よかった。

地元にいながら、全道の先生と交流できることがとても参考になる。

# 研修 (地域連携共同企画支援研修)

各地域の教育課題等の解決や教職員の資質能力の向上に資するため、各管内の教育研究所等が主催する研修講座等に所員を派遣した。

## 令和4年度からの変更点

所員を派遣するための旅費が申込団体負担から**道研負担**となった。



申込状況 (令和6年1月31日現在 **43件**)

- 石狩教育研修センター (9月19日/遠隔型)  
「児童生徒の成長を促す積極的な生徒指導の在り方について」
- 登別市教育委員会 (12月26日/集合型)  
「1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協同的な学びが一体となった模擬授業体験」<sup>15</sup>

# 教育の振興（理科・産業教育）

理科教育・産業教育を通じて、我が国の発展・経済自立に貢献する人材の育成が求められている ※理科教育振興法・産業教育振興法より

## 観察・実験に係る課題

全ての学校に十分な機器の整備や、  
専門職員による観察・実験は困難

科学機器を搭載したサイエンスカーを整備し、専門職員による**移動理科教室**を実施

## 施設・設備整備の課題

全ての学校に最先端の施設・設備  
を用意することは困難

道立高校に対し高度な産業教育の  
実習を**オンライン**で実施  
できる**生徒実習システム**  
を提供

# 教育の振興（理科・産業教育）

令和5年度実績

移動理科教室

## <メニュー（一部）>

- 196℃の世界
- クワガタ号
- 静電気を体験しよう
- ミクロの世界をのぞこう

## <訪問先>

管内	日程	参加市町村
石狩	5月	新篠津村
後志	6月	京極町、二セコ町、神恵内村
胆振	6月	厚真町、伊達市、登別市
上川	7月	士別市、剣淵町、下川町
空知	7月	月形町
宗谷	8月	稚内市、浜頓別町
オホーツク	9月	北見市、津別町
釧路	10月	浜中町、弟子屈町



参加児童生徒のべ **1275名** 教職員**130名**

# 教育の振興（理科・産業教育）

令和5年度実績

親と子の理科教室

道研と(公財)北海道科学文化協会、ネイパル深川との3者で共催

## ＜実施内容＞

実施内容	沼田町化石館	化石レプリカづくり、ミニ発掘体験、化石館見学	
	ネイパル深川	自然体験活動（ネイチャービンゴ等）	など



化石のレプリカは手のひらサイズ！



学芸員から沼田町産出化石の解説



ネイパル学習で自然の見方を再認識

# 教育の振興（理科・産業教育）

令和5年度実績

生徒実習システム

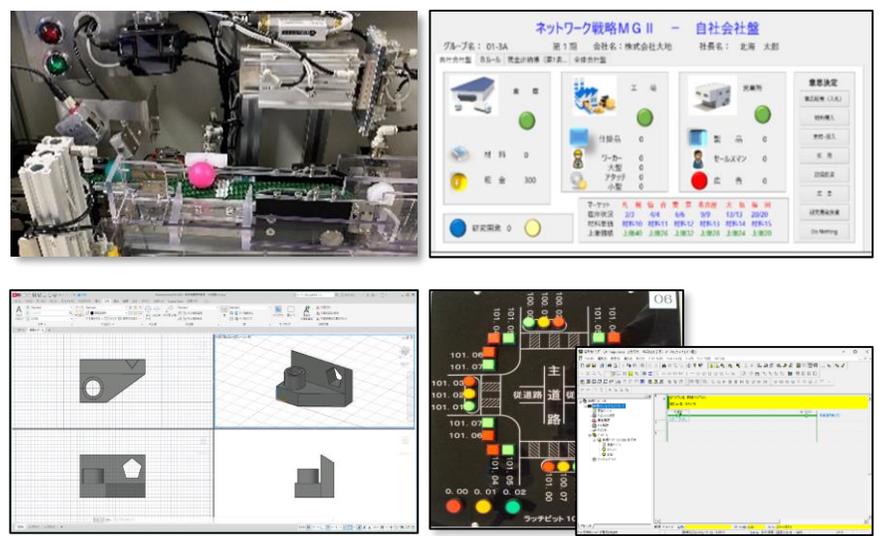
## <メニュー（一部）>

- FA制御
- 戦略マネジメントゲーム
- 3D CAD(Computer Aided Design)
- 信号機制御

## <対象校の拡大>

※工業・商業科以外の学科でも利用可

	更新前 ~R5/9	更新後 R5/10~
工業系メニュー	17	19
商業系メニュー	43	<b>190</b>



## <活用促進に向けた取組>

- 商業科教員の指導力向上研修(10月)
- 工業科教員の指導力向上研修(10月)
- 地域を創造する人材育成の推進研修(12月)
- 生徒実習システム研修会（1月）

# 教育の振興(関係機関との連携)

## 北海道教育研究所連盟

### 令和5年度実績

### 北海道教育研究所連盟

#### ◆ 学習会

- ・ 夏季・冬季所員学習会（令和5年7月28日、11月24日）

#### ◆ 共同研究

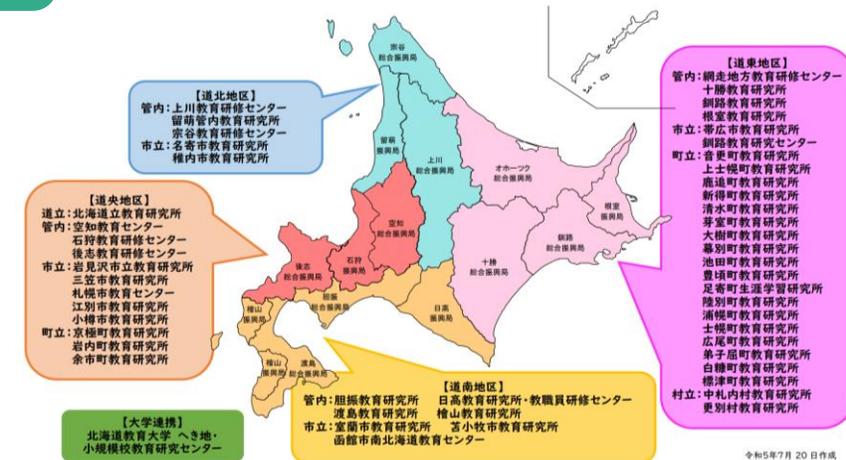
- ・ 研究主題

「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて」

- ・ 推進委員会（令和5年5月12日、10月20日、令和6年1月12日）

#### ◆ 研究発表大会

- ・ 令和5年度第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会（十勝大会）兼全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会（令和5年8月31日、9月1日）



#### 【加盟機関数】

道立： 1  
管内： 14  
市立： 12  
町立： 21  
村立： 2  
大学： 1

計 51 機関

---

# 令和 6 年度事業計画

# 調査研究

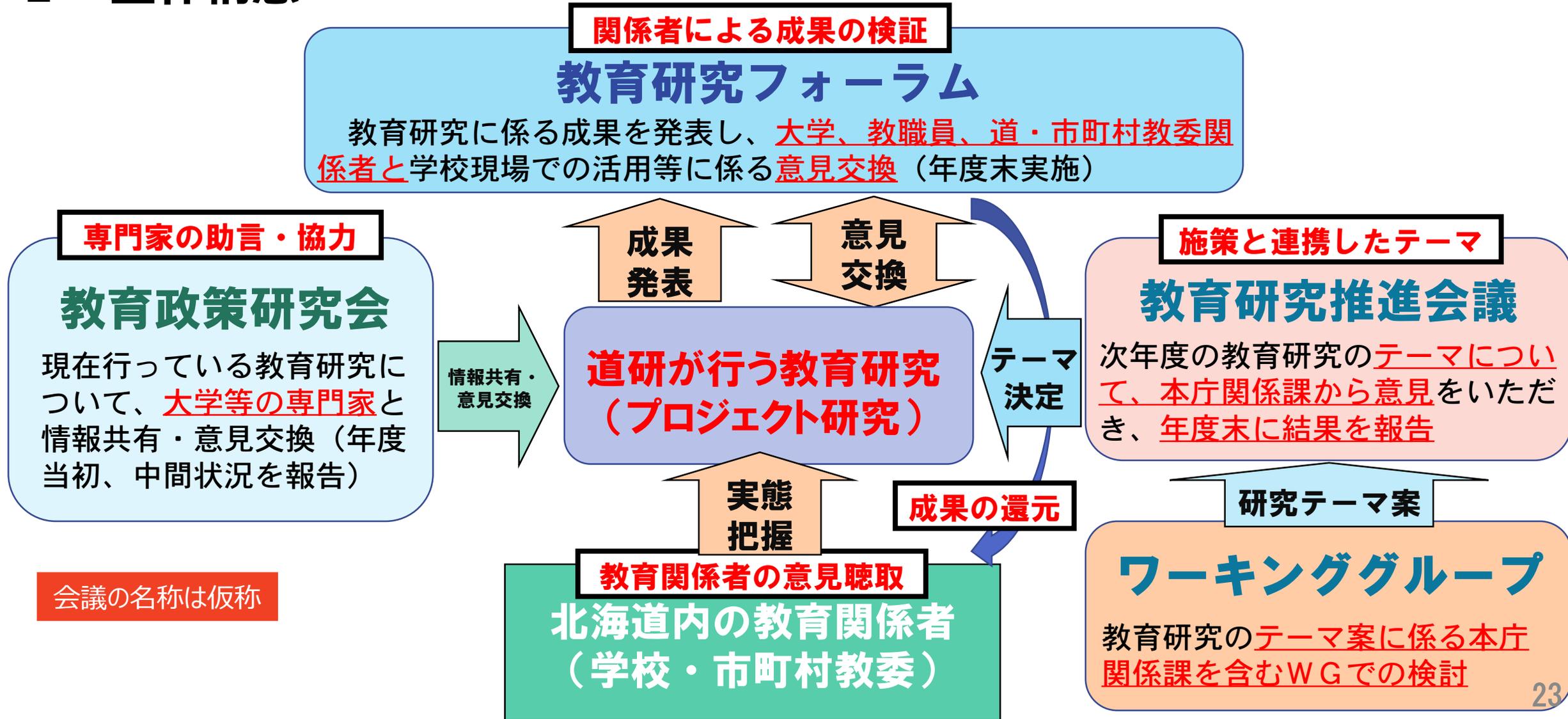
## 令和6年度プロジェクト研究のコンセプト 学校の教育活動に役立つ研究！

### 令和6年度プロジェクト研究テーマ（予定）

- ① 中学校技術・家庭（技術分野）におけるプログラミング研修教材の開発に関する研究
- ② 「新たな教師の学びの姿」を実現する校内研修の企画・運営に関する研究
- ③ 初任段階教員の資質・能力の向上に向けた効果的な研修プログラムに関する研究
- ④ 北海道STEAMの推進に関する研究
- ⑤ 高等学校における「指導と評価の一体化」を踏まえた探究的な学習に関する研究

# 研究の充実に向けて ～シンクタンク機能の発揮～

## 1 全体構想



# 研究の充実に向けて ～シンクタンク機能の発揮～

## 2 実態の把握

### 道研プロジェクト研究

本道教育の充実・発展に資することを目的として、毎年度テーマを設定し研究を実施

実態把握  
(アンケート調査等)

研究成果の  
普及・還元

### 北海道内の教育関係者

学 校：小・中・義務教育・高等学校・特別支援学校

教育委員会：市町村教育委員会、市町村立教育研究所・センター等

# 研究の充実に向けて ～シンクタンク機能の発揮～

## 3 本庁との連携

### 教育研究推進会議（仮称）

内容：道研のプロジェクト研究のテーマ等に対して、本庁の関係課から助言をいただき、本庁の施策との関連を図る

開催：各年度9、2月

参加：本庁局長級以上、道研所長のほか

研究テーマ案

### ワーキンググループ

内容：道研のプロジェクト研究のテーマ等に対して、本庁関係課と意見交換を行い、本庁の施策との関連を図る

参加：本庁関係課課長補佐、道研研究主幹

開催：各年度8月ほか適宜

説明

助言

意見交換

説明

道研プロジェクト研究

# 研究の充実に向けて ～シンクタンク機能の発揮～

## 4 大学等との連携

### 教育政策研究会（仮称）

内容：道研のプロジェクト研究について、大学等の専門家と情報共有・意見交換を実施するほか、必要に応じて協力を依頼

参加：教育大、文教大、北翔大、酪農大、札学大

開催：年2回（①4～5月、②10～11月）

助言・協力

### 教育研究フォーラム（仮称）

内容：道研のプロジェクト研究に係る成果を発表し、教育関係者と学校での活用に係る意見交換を実施

参加：道内の学校、大学、教育委員会、教育研究所

開催：令和7年3月

説明

情報共有・  
意見交換

成果発表

意見交換

道研プロジェクト研究

令和6年度研修講座のコンセプト

## 「新たな教師の学びの姿」を実現するための 研修の推進を

新たな教師の学びとは...

### 主体的な姿勢

変化を前向きに受け止め、  
探究心をもちつつ自律的に  
学ぶことができる姿勢

### 継続的な学び

求められる知識技能が  
変わっていくことを意識  
することができる学び

### 個別最適な学び

新たな領域の専門性を身に  
付けるなど強みを伸ばす  
ための、一人一人の教師  
の個性に即した学び

### 協働的な学び

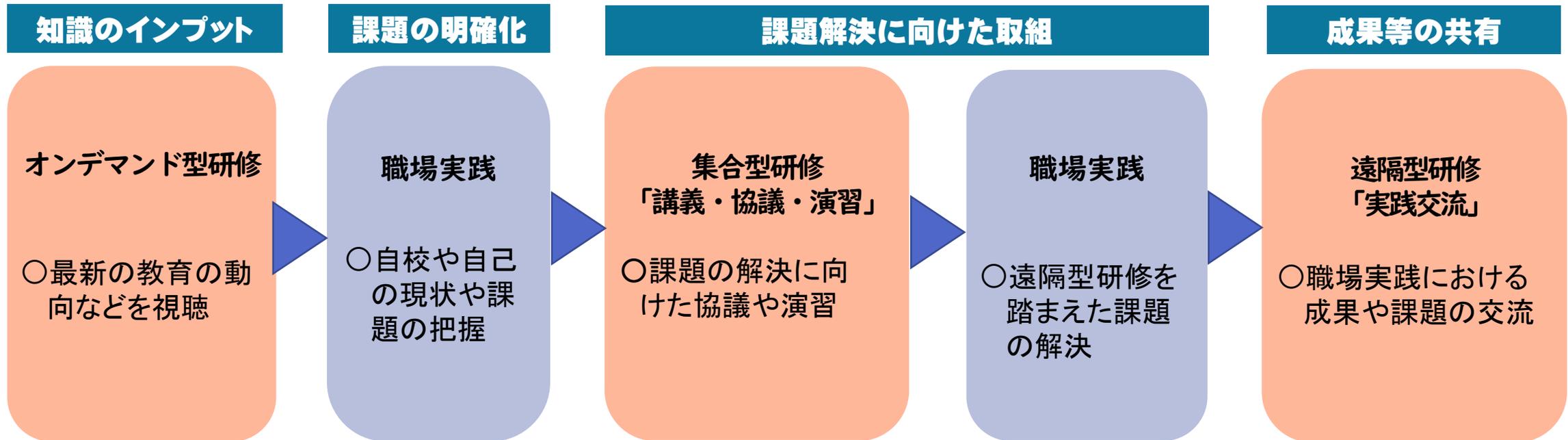
他者との対話や振り返りの  
機会を確保した学び

# 研修

## R 6 取組の特色

### <課題解決型研修>

新たにインプットした知識を基に一人一人の課題の明確化を図り（**個別最適な学び**）、**協働的な学び**によって課題解決を図ることで、**主体的な姿勢**につなげます。



1つの研修を複数回に分けて実施することで研修効果を高め、**継続的な学び**となるように支援します

# 研 修

## R 6 取組の特色

### <探究的な手法により実施する研修>

一人一人の受講者が既存の手法や考え方を捉え直し、自らの教育実践を再構成・変革することを目指します。

#### <研修目標>

受講者が、研修後に何ができるようになるか

#### <研修内容>

受講者が、研修で何を学ぶか

#### <研修方法>

受講者が、研修を通じてどのように学ぶか

## 【講座のねらい】 ※探究省察型研修

集合型研修による講義や受講者同士の協議と職場実践を重ねることを通して、学校内外の関係者と学校経営目標を共有し、学校の教育力を最大化する学校経営の在り方について理解を深める。

【対象】 全ての校種の管理職

【定員】 32名

## 【研修日程・内容】

①3.0h 6月上旬

### 遠隔型研修 I

#### 「講義・協議・演習」

- 学校経営におけるアセスメントとファシリテーションについての基本的理解
- 学校経営及び目標の点検
- アセスメント実践の構想

### 職場実践 I

- 学校経営の目標の実現に向けたアセスメントの実践

②5.0h 9月下旬

### 集合型研修

#### 「協議・演習」

- 職場実践の交流・検証
- ファシリテーションの具体的な実践計画の構想

### 職場実践 II

- 学校経営の目標の実現を図るファシリテーションの実践

③1.5h 12月上旬

### 遠隔型研修 II

#### 「協議」

- 職場実践の交流
- 研修の振り返りとまとめ

講師 ①②③北海道教育大学教職大学院旭川校特任教授 北村 善春 氏

平成28年 北海道教育庁学校教育局長

平成30年 北海道立教育研究所長

令和2年～現職

「北海道における教育課題と現職教員研修の観点から見た教育研究への期待」

## 【講座のねらい】 ※探究省察型研修

遠隔型研修や職場実践を踏まえた集合型研修を通して、これからの時代に求められる管理職の資質能力や学校組織マネジメントについて理解を深める。

【対象】 全ての校種の管理職

【定員】 32名

## 【研修日程・内容】

①2.0h

7月上旬  
遠隔型研修Ⅰ  
「説明・協議」

○研修イメージの共有

②6.5h 8月27日～30日  
×4日 集合型研修  
「演習・協議・講義」

○自らのものの見方・考え方の省察  
○省察（リフレクション）を踏まえた学校組織マネジメントの検証

8月下旬～  
11月上旬  
職場実践

○集合型研修を踏まえた職場での取組

③2.0h

11月下旬  
遠隔型研修Ⅱ  
「交流・協議」

○職場実践の交流  
○まとめ

講師 ①②③ 愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科准教授 葛西耕介氏（予定）

# 研修（地域研修サポート事業）

令和4・5年度に実施した「地域連携共同企画支援研修」の後継事業で、教育研究所・教育（研修）センター及び教育関係機関・団体等の依頼に応じて所員を派遣して行う事業

## 主な変更点

申込期日は、原則、実施希望日の2ヶ月前まで



## 実施内容

学習指導、生徒指導、教科等専門教育等に関する研修講座について、講義、協議、演習、助言等のサポートを行う。

web会議システムを用いた遠隔型及び会場での集合型

実施方法



# 教育の振興（理科・産業教育）

## 令和6年度計画

### 移動理科教室

日程	管内
5月～11月	石狩・空知
6月	渡島・檜山
7月	十勝
9月	留萌・根室
10月	日高

**令和6年度は8管内で  
実施予定**

### 親と子の理科教室

道研と(公財)北海道科学文化協会、  
ネイパル砂川との3者で共催

#### <内容（予定）>

- 夏 ～ フィールドワークや博物館  
見学
- 冬 ～ ネイパルで実験や物づくり

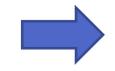
# 教育の振興（理科・産業教育）

令和6年度計画

生徒実習

## <対象校の拡大>

	現在	予定 R6/6~
工業系メニュー	19	190
商業系メニュー	190	190



工業系メニューについても利用対象校を**190校**に拡大予定

## <活用促進に向けた取組>

- 商業科教員の指導力向上研修(8月 2回)
- 工業科教員の指導力向上研修(10月)
- 生徒実習システムオンライン研修会(随時)

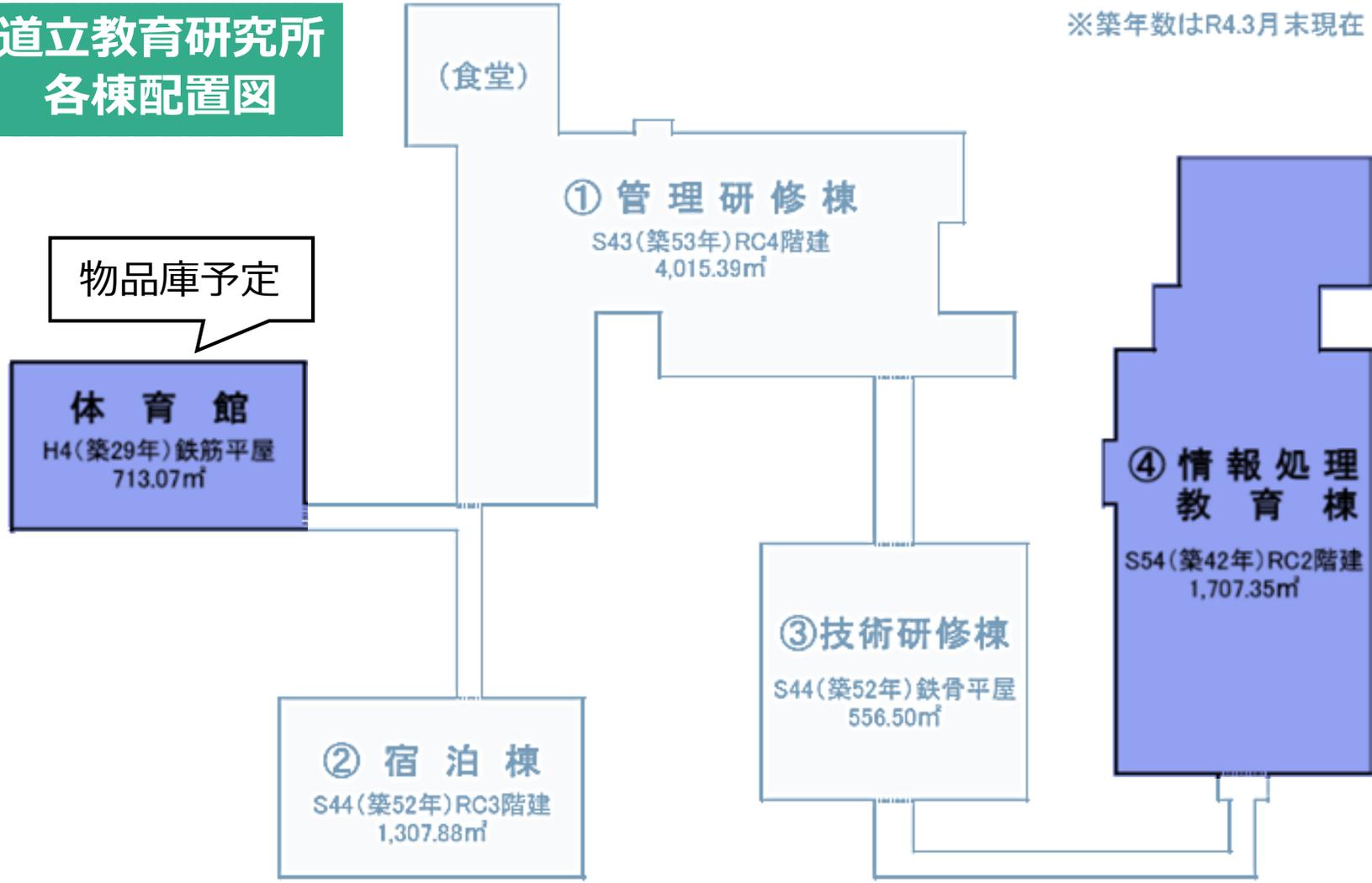


学校からの要望に応じた**オンライン研修**の充実

# 施設概要（令和8年度～）

## 道立教育研究所 各棟配置図

※築年数はR4.3月末現在



令和6年度  
研修講座の  
コンセプト（案）

# 「新たな教師の学びの姿」を実現するための研修の推進を

## 新たな教師の学びの姿とは

### 「主体的な姿勢」

変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自律的に学ぶことができる姿勢

### 「継続的な学び」

求められる知識技能が変わっていくことを意識することができる学び

### 「個別最適な学び」

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した学び

### 「協働的な学び」

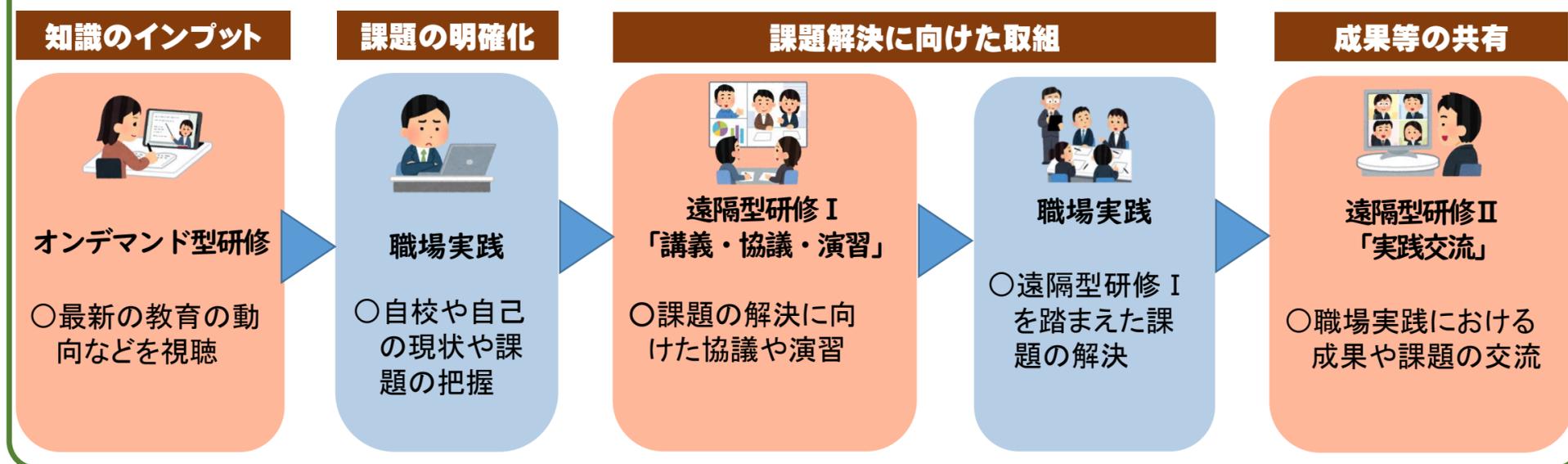
他者との対話や振り返りの機会を確保した学び

## 特色

### <課題解決型研修>

新たにインプットした知識を基に一人一人の課題の明確化を図り（**個別最適な学び**）、**協働的な学び**によって課題解決を図ることで、**主体的な姿勢**につなげます。

1つの研修を複数回に分けて実施することで研修効果を高め、**継続的な学び**となるように支援します



### <探究的な手法により実施する研修>

一人一人の受講者が既存の手法や考え方を捉え直し、自らの教育実践を再構築・変革することを目指します。

## 注目の研修

### <管理職研修>

- ・学校管理職に求められる、**アセスメント能力**及び**ファシリテーション能力**の育成を目指した研修
- ・「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる、**特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応**、**ICTや情報教育データの利活用**に係る研修

既存の手法や考え方を捉え直すことで教育実践を再構成・変革することを目指す探究的手法により実施

### <教科指導研修>

- ・探究的な学習における指導と評価の充実（高校）や、高校入試問題等から授業改善のヒントを得る研修
- ・デジタル化に対応した専門的な知識・技術を習得する実践的な研修

### <今日的な課題対応研修>

- ・いじめ、不登校、自殺予防教育等の生徒指導研修や、保護者への対応について理解を深める研修
- ・小規模校におけるこれからの授業の在り方やSTEAM教育の推進に係る「総合的な探究の時間」実践研修

令和6年度(2024年度)北海道立教育研究所研修講座一覧(案)

資料 3

令和6年2月15日更新

区分・講座番号	講座名	略称	研修講座日程				対 象			
							小	中	高	特
管理職	1 学校管理職研修1 ～学校経営におけるアセスメントとファシリテーション～	学校経営	①遠隔 6/7(金)	②集合 9/20(金)	③遠隔 12/5(木)		○	○	○	○
	2 学校管理職研修2 ～これからの時代に求められる管理職の資質能力～	資質能力	①遠隔 7/5(金)	②集合 8/27(火)～8/30(金)	③遠隔 11月下旬		○	○	○	○
	3 学校管理職研修3 ～学校教育の質を高める働き方改革～	働き方	①遠隔 6/12(水)	②遠隔 9月中旬			○	○	○	○
	4 学校管理職研修4 ～多様な児童生徒への支援を充実させる学校体制の構築に向けて～	支援体制	①オンデマ 6月中旬	②遠隔 6月～7月	③遠隔 12月中旬		○	○	○	
	5 学校管理職研修5 ～組織的に取り組むICT活用～	ICT	①オンデマ 8月下旬～9月上旬	②遠隔 10/18(金)			○	○	○	○
	6 学校管理職研修6 ～学校危機における管理職のマネジメント～	学校危機	①遠隔 10月上旬				○	○	○	○
	7 学校管理職研修7 ～多様な専門性を有する質の高い教員集団の形成に向けた人材育成～	人材育成	①オンデマ 6月上旬～中旬	②遠隔 7月中旬			○	○	○	○
	8 学校管理職研修8 ～「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた校内研修の在り方～	校内研修	①オンデマ 5月下旬	②遠隔 6月下旬			○	○	○	○
教科指導	9-1	国 地歴公 数 理 英	①オンデマ 6月中旬～下旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 11月中旬				○	
	9-2		①オンデマ 6月中旬～下旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 11月中旬				○	
	9-3		①オンデマ 6月中旬～下旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 11月中旬				○	
	9-4		①遠隔 7/19(金)	②オンデマ 7/22(月)～	③集合 8/29(木)～8/30(金)	④遠隔 1/27(月)				○
	9-5		①オンデマ 6月中旬～下旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 11月中旬					○
	10	中教科	①オンデマ 9月上旬	②遠隔 9月中旬					○	
	11	中国充	①オンデマ 7月中旬～8月中旬	②遠隔 8月下旬	③遠隔 11月下旬				○	
	12	中数充	①オンデマ 7月中旬～8月中旬	②遠隔 8月下旬	③遠隔 11月下旬				○	
	13	中外充	①オンデマ 6月下旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 10月下旬				○	
	14	中技充	①遠隔 6/18(火)	②遠隔 10/25(金)					○	
	15	小外充	①オンデマ 6月中旬	②遠隔 7月中旬	③遠隔 10月中旬				○	
	16	英語力	①遠隔 8月下旬	②遠隔 9月上旬	③遠隔 9月中旬				○	
	17	授業力(国)	①遠隔 8月下旬						○	
	18	授業力(算)	①遠隔 8月下旬						○	
	専門	19 S-TEAM教育推進事業「STEAM」推進プロジェクト「理数探究セミナー」(高等学校)	理数探究	①遠隔 10月下旬 ②集合 10月下旬	②遠隔 11/15(金)	③遠隔 12/10(火)				○
		20 観察・実験を通じた科学的に探究する力を育む理科教育充実研修(中学校)	中科协	①遠隔 10/8(火)	②オンデマ 10/9(水)	③集合 11月(2日間)	④遠隔 2/3(月)			○
		21 観察・実験を通じた問題解決の力を育む理科教育充実研修(小学校)	問題解決	①遠隔 9/4(水)	②オンデマ 9/5(木)	③集合 10/3(木)～10/4(金)	④遠隔 1/30(木)			○
		22 キャリア教育における実践的指導力向上研修～生徒実習システムを活用した職業教育の推進～	キャリア	①オンデマ 5月中旬～	②遠隔 8月(2回)					○
23 工業科教員の実践的指導力向上研修～工業科目の授業づくりの進め方～		工業	①オンデマ 9月中旬～下旬	②集合 10/10(木)～10/11(金)					○	
生徒指導	24 生徒指導研修1 ～いじめ問題への組織的な対応～	いじめ	①オンデマ 6月中旬～下旬	②遠隔 7月上旬	③遠隔 11月中旬				○	
	25 生徒指導研修2 ～不登校児童生徒への組織的な支援の在り方～	不登校	①オンデマ 7月上旬～下旬	②遠隔 8月上旬	③遠隔 11月下旬				○	
	26 生徒指導研修3 ～自殺予防に向けた心の危機に気付く力と相談する力の育成～	自殺予防	①オンデマ 6月上旬～6月下旬	②遠隔 7/1(月)					○	
課題対応	27 「総合的な探究の時間」実践研修	総探	①遠隔 6/6(木)	②遠隔 6/21(金)	③分散 7月下旬～8月上旬				○	
	28 保護者との連携の在り方 ～保護者対応に係るロールプレイ演習～	保護者	①集合 6月下旬	②遠隔 11月下旬					○	
	29 へき地・小規模校教育充実研修	へき小	①オンデマ 6月下旬～	②遠隔 7月中旬	③遠隔 12月中旬				○	
	30 薬品取扱い研修(小・中・高等学校)	薬品	①集合 7/12(金)						○	
	31 薬品取扱い基礎研修(小・中学校)	薬品基礎	①集合 6/4(火)						○	

※ 実施形態について

オンデマ:「オンデマンド型研修」道研から動画等を配信し、期間内の任意の日時で視聴していただく研修です。  
 集合:「集合型研修」従来どおり道研または道研以外の会場に集合して実施する研修です。  
 分散:「分散型研修」集合型研修形式により実施しますが、受講者を会場や時間帯で分けて実施する研修です。  
 遠隔:「遠隔型研修」ウェブ会議システム等を利用し、リアルタイム・双方向で実施する研修です。  
 選択:「遠隔型研修」と「集合型研修」から希望する形態を選択して受講する研修です。

オンデマンド型研修  
(動画等の配信)

分散型研修  
(会場:道立教育研究所以外)

集合型研修  
(会場:道立教育研究所以外)

遠隔型研修  
(リアルタイム・双方向で実施)

集合型研修  
(会場:道立教育研究所)